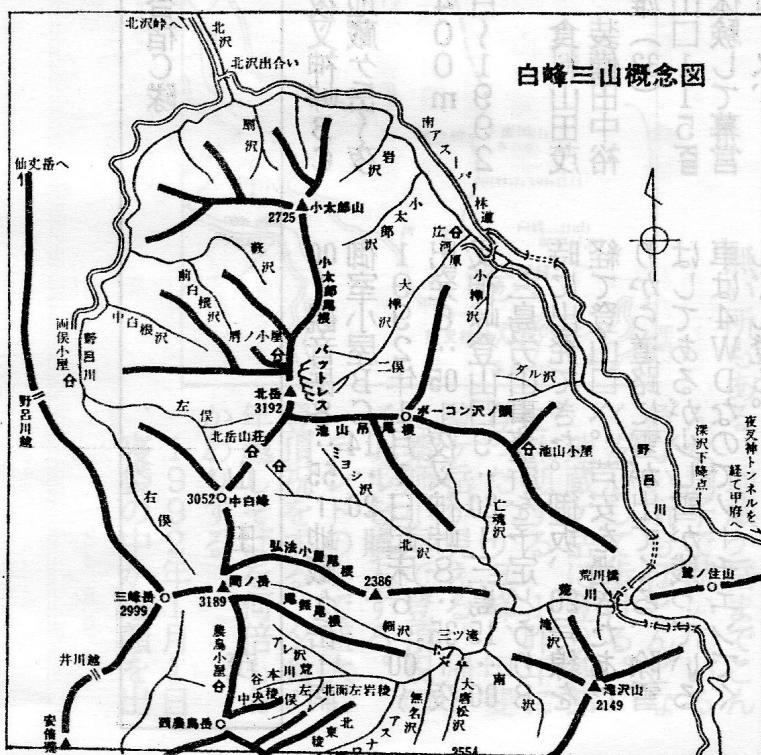


から来たというが、かなり時間がかかる。入山者が少ない暮の早いこの時期は案外ラッセルはあるのだ。トップを交替するが樹林帯のフカフカ雪の急登は仲々手強い。息を切り強引に登るとようやく城峰に着いた。尾根上は強風が吹きまくっていたが小さなテントを張る。夜中も強風が吹きまくり梢の音が騒がしく眠れなかつた。

寒い。天気がハツキリしないのでテントで待機する。新人達にはスッキリした天氣で登らしたかったのに残念だ。帰省する中里と新年的挨拶に行かねばならない長岡がどうしても今日中に下山したいと言うのでとにかく出発する。入山前はそんな事はひと言も言つて

11月3日(地吹雪)
^タイムV起床3:
00-出発7:00-
ボーコンの頭8:
30-BC9:15-出
発10:30-奈良田
ゲート15:45

強風は朝になつて
も止まなかつた。氣
温はマイナス15度で



なかつたので心外だつたが、確認しなかつた私もまづかつた。森林限界を越えるとモーレツな地吹雪だつた。久し振りの冬山らしい風だつたが、油断するとすぐバランスを崩す。上から下山していく人が多い。それでもなんとかボーコンの頭に達した。しかし、ものすごい風、風、風。記念撮影もままならない。下山を決定しBCに向う。「引返す勇気」は大切な事だ。BCを撤去して1昨日通つた道を下つて行く。雪道は2日の間に「池山スカイライン」になつていた。発電所を過ぎテントを張つたトンネルに来るとA隊弘法小屋尾根の藤巻、中田が登つて來た。中田が調子悪く「帰りたい、帰りたい」を連発。雪が多いうえ入山しているパーティも少ない様なので十分気をつけるようにと激励して別れる。天気はいつしか良くなり、きれいな青空が広がつていた。